

[第 105 回藤樹人間学塾のご案内]



皆さま

令和 2 年 5 月

NPO法人高島藤樹会

いつもありがとうございます。

本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

4 月は 9 名の参加でした。新型コロナウイルスの感染拡大を避けるため十分配慮して行いました。

今回は、『中庸解』の第 20 章の続きです。「天下国家を治めるには九経あり……。」天下国家を治めるには、その典法として万世不易な九条がある。第一は修身である。君主が身を修めれば天下国家は自然と治まってい……。要するに、人の上に立つものは、有能な人材を活用し、周りの親族のみならず庶民にも心を配り、事業者や旅行者も配慮するようにすれば、自然と天下の政治が上手く行くというものです。

今回は、新型コロナウイルスの感染拡大が進んでいることに鑑み、この事象について考えました。まず、ダライ・ラマ法王の宗教者としてのメッセージ、池上彰氏の歴史的な視点からの提言などを伝えました。そして、藤樹の「孝」思想と関連付けて考えてみました。藤樹思想では、意念の惑い(我欲への固執)を除去して天(大宇宙)を敬い、隣人を愛することを教えています。しかし現代社会では我欲の増殖がどんどん進み、それは地球資源の多消費→地球温暖化→極度の気候変動となって環境破壊が進み、貧富の格差が拡大し、戦争等を引き起こしています。大宇宙(天)がこうした現在社会の人類の行為に警鐘を鳴らす意味でウイルスを発生させたのではないかと考えられます。コロナウイルスは、人類の生命上にも経済上にも甚大な被害をもたらし、影響の長期化は避けられません。

そこで、皆で議論しました。

「人間の欲望があるから人類は進歩した。だが、富裕層が地球資源を独占しているのは問題だ」、「コロナウイルスのいない県もあり、田舎の良さを見直すきっかけになる」、「子供が小遣いで布を買ってマスクを作って贈った美談もあれば、議員がマスクを高値で販売した話もある」、「東日本大震災の時のように国内がまとまるきっかけになるとよいと思う」、「自然現象に対するリスクヘッジを考えておく必要がある。食品の価値＝鮮度というような物事の価値基準に見直すきっかけになる」等の意見が出ました。

この危機をいかに乗り切るか、を総合的に考えると以下がいえると思います。

1. 人類の連帯、自国ファースト主義から国際協調、国内協調(利他の心)への転換が必要。
2. 改善策があるなら心配せずにそれを実行する。我欲をコントロールする価値観への転換。
3. 個々人が免疫力を高め、自衛することを心掛ける。

学ぶは愉し！あなたも本塾に参加されませんか。

■ 日 時 令和 2 年 6 月 6 日(土) 15 時～17 時

■ 場 所 安曇川公民館(高島市安曇川町田中89)

■ テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」

テキスト 中江藤樹著・西晋一郎通釈『中庸解・通釈』第 20 章 p.251～

塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)

